

ディボーション質問表

26日(日) 先週一週間のディボーションを振り返ってみましょう。

27日(月) ヨハネの黙示録 1:1~8

この地上では悪人が善人より力を持ち、彼らのほうがいろいろな意味で得をしているように見えます。しかし、キリストが十字架を通して、完全な勝利者になってくれたことで、私達に希望が与えられました。この書は私達に「自分が今どんな境遇にあったとしても、決して失望には終わらない」事を教え、同時に「この世に流されてしまいがちな者には警告」を与えてくれます。

1. 黙示録は、はじめ父なる神がキリストに与え、キリストからヨハネに示されました。主題がキリストの再臨とその支配だからです。キリストはまたこの地に来て、今度は身代わりに死ぬのではなく裁き主として正義を行います。さて、その時は近づいているのですが、それはあなたの生き方にどのような影響を与えていますか。
2. 6節の「王国」は単数です。キリストのもと、国々はひとつになり、私達がその一員になります。しかも祭司です。祭司の主な働きはとりなしです。あなたはこれから、だれのために、又は何のために祈っていらっしゃいますか。

28日(火) ヨハネの黙示録 1:9~20

現トルコ領内にこの七つの教会がありました。それぞれかなり個性の違う教会でしたが、その教会達の真ん中にキリストが立っていました。ここからは不思議な表現が多く出てきます。しかし、聖書は聖書で解釈する、という基本に立ち、似たような聖書箇所が他になかったかどうか思いだしながら、読みすすめていきましょう。

1. ここで出てくるキリストの印象はどうでしょうか(13~17節)。
2. このキリストを見てヨハネはうちのめされました。しかし「恐れるな。」とされています。なぜわたしたちは恐れなくても良いのでしょうか。

29日(水) ヨハネの黙示録 2:1~7

ここから始まる七つの教会は実際には当時の小アジアに点在した地域の教会ですが、教会の歴史、または教派を象徴する、という解釈もあります。いずれにせよ、完璧な地域教会というものは存在しません。しかしどんな教会からでも何かを学ぶ事はできるのです。エペソ教会の始まりは確かにすばらしいものでした(使徒19章)。でも神の目にはどのように映っていたのでしょうか。

1. エペソの教会の優れた点と変えるべき点を読みとってください。
2. ニコライ派は字義どおりには「信徒組織化」を意味し、一部の優秀と思われる信者に権威を持たせ、ピラミッド型の組織を教会に持ち込んだ最初のグループとされています。神が望まれる教会のあり方とは何でしょうか。

30日(木) ヨハネの黙示録 2:8~11

スミルナの教会は苦しみと貧しさの中にありました。しかし、それだけではなく神がその現実を知り、報いを用意している、という約束が書かれています。ここに出てくる七つの教会のあった地域が現在ほとんど廃墟と化している一方、スミルナの町だけは今もトルコの商業都市としてその存在を維持していることは神の恵みと言えるかもしれません。

1. スミルナ教会に与えられている神からの励ましと約束は私達にも適用できるものです。そして主にある困難は期間限定です。有名な皇帝ネロの迫害でさえ、10年も続きませんでした。もし迫害や困難の中にあるなら「いのちの冠」の与えられることを覚え、自分自身の信仰として表明しましょう。
2. 死に至るまで忠実である、ことは聖霊の働きによって可能です。今日あなたが神に忠実であるべき事はどんなことでしょうか。またあなたの生涯にわたってはどんな点で神に忠実でありたいですか。

31日(金) ヨハネの黙示録 2:12~17

ペルガモはバビロンの時代からの町でその偶像崇拜の歴史は長いものでした。しかし、そのような町にも信仰者が起こされ、さらに殉教者アンテパスも出ました。しかし、かつての偶像崇拜の考えから脱却しきれず、教会の中にバラムのわなを持ち込みました(民数記22~25章)。バラムがモアブの王バラクに会った後でイスラエルはモアブの娘達とみだらな関係を持ち、偽りの神々を拝んだように、ペルガモ教会の中に偶像宗教の考えがまた出てきました。

1. 偶像の町、ペルガモにも教会ができたことからあなたはどんな希望を見いだしますか。国レベルから個人レベルまで考えてみてください。
2. 隠れたマナ、白い石は混ざりものない福音、キリストです。わたしたちはこの純粋な福音に何か日本的な混ぜものを入れていないでしょうか。考えてみましょう。

1日(土) ヨハネの黙示録 2:18~29

テアテラの教会は愛と行いに優れた教会でした。しかし、人間的な権力の象徴であるイゼベルの悪影響を受け、神の言葉から離れてしまいました。そして偶像崇拜を導入し、正しい信仰者を圧迫しました。歴史的にはローマカトリックがテアテラの教会と言えます。愛と奉仕に長じ、その長い歴史の中で少なからず改善もなされてきましたが、その法王中心主義によって、教会と地域社会に圧力・迫害を加え、各種聖人像などの偶像も導入してしまいました。そのモットーは「常に変わらないこと」でしたが、神は「耳のある者は聞け」と変化を促しました。

1. ここでの描写から、イエス様はどんな事をテアテラの教会に願っていると思いますか(18、24~27節)。
2. イゼベルが行っているような不当な迫害は、長続きしません。あなたはどんな点でしっかりと立ちたいと思いますか。